

北海道立図書館報

No.188
2010.3.24

北海道立図書館 HOKKAIDO PREFECTURAL LIBRARY 〒069-0834 江別市文京台東町41 電話:011-386-8521 ファックス:011-386-6906

文字サイズの変更 大 小 背景を変更 黒 白 リセット サイト内検索 Google™カスタム検索 検索

お問合わせ サイトマップ

ホーム 道立図書館について 利用案内 開館カレンダー 交通案内 道内図書館一覧 関連リンク

本をさがす 蔵書検索
道内の本をさがす 横断検索
北海道雑誌新聞 総合目録
インターネット 予約貸出

レファレンス(調査相談)
新着図書案内
今月の展示・展示目録
図書館の刊行物
北方資料室
デジタルライブラリー
こどものページ
北海道内の図書館イベント
連携のページ(関係団体等)
子ども読書の情報ポケット

図書館ポータル 図書館・室のページ

携帯サイト

道立図書館の入札情報

お知らせ イベント

「お知らせ」最新10件

- 北海道人物文獻目録を公開しました(2010年01月01日)
- 「第2回北海道立図書館協議会会議要旨」を掲載しました(2009年12月08日)
- 「情報探索ガイド」を掲載しました。(2009年04月24日)
- 「図書館海援隊」プロジェクトほっかいどう(2010年02月16日)
- 2010年は国民読書年です(2010年01月31日)
- 貸出資料の発送日について(図書館向け)(2010年01月01日)
- インターネット予約貸出サービスの利用方法が変わりました。(2010年01月01日)
- 北海道立図書館利用者アンケート調査結果の追加について(2009年03月04日)

「お知らせ」一覧を見る 北海道立図書館RSS RSSについて

開館カレンダー

2010年3月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

前の月 次の月

北方資料室

デジタルライブラリー

こどものページ

北海道立図書館 | このサイトについて | guide to hokkaido prefectural library |

©2010 Hokkaido Prefectural Library, All Rights Reserved.

当館ホームページのトップページ画面 (イメージ) (2～3 ページに関連記事掲載)

目次

<寄稿> 北海道立図書館協議会委員 小杉元一氏	1
北海道立図書館情報システム・リニューアル	2～3
平成21年度事業報告(平成21年7月以降)	
第51回北海道図書館大会	4～5
全道図書館研究集会・全道図書館中堅職員研修会	6
夏休み図書館まつりー古本市とおはなしの会	7
道民カレッジ連携講座	8
健康に関する情報講座(北海道医療大学共催事業)・創造学園31塾	9
平成21年度全国優良読書グループ表彰・優良読書グループ北海道表彰	10
平成21年度北海道立図書館協議会	11
レファレンスあれこれ「ABC官庁建築とは」	12
所蔵資料紹介「西武百貨店札幌店(五番館)関連資料」	13
平成22年度事業計画・展示計画	14～15
掲示板	16

北海道立図書館に期待すること

北海道立図書館協議会委員 小杉元一

公立図書館や大学図書館を渡り歩いて、一昨年、本の森厚岸情報館を定年退職したのですが、いまだに図書館というものがよくわかりません。ただ、図書館の現場を離れてみて、それまではよく見えなかった利用者のもやもやした期待感や不満感といったものが、すこしは見えてきたような気がします。私自身、一人の市民として図書館を利用してみると、ときには迷路に入りこんだような気分になったり、なぜかつまらなくなったりすることがあります。利用者のそういう気分は、ときに図書館に対する具体的な不満や要望、あるいは期待になって表れることもあります。

こういう利用者のもやもやした気分に図書館の現場はどう対応するのでしょうか。もっと言えば、図書館運営にどういうふうに取り込んでいくのでしょうか。もちろんマニュアルなんかありません。住民のそういう気持ちや声を、具体的に聴いて運営に反映させていくことだけです。図書館協議会というのは、それを行政として制度化したもの一つにほかなりません。一昨年の夏、私が道立図書館の協議会委員に応募しようと思ったのは、こうした地域の利用者を感じるもやもやした期待感や不満感を、ことばや声にしてぶつけてみたいという素朴な思いからでした。

道東のはずれの小さな図書館を利用する者にとって、道立図書館というのは、辺境の地に対しての中央の図書館というイメージがあります。どこかに大きな期待感があるのです。実際、現場で働いていたときには、相互貸借やらレファレンスやらで、道立図書館の職員の方々から親身なご協力をたくさんいただきました。そのときに、これは道立図書館から借用した資料だとか、北方資料室で調査していただいた情報だと言うと、利用者の顔が輝くのです。さすが道立図書館だというわけです。これは「図書館の図書館」とか、「道民みんなの図書館」といった道立図書館の理念が、眼に見えるかたちで具体化しているからだと思います。

しかし、道立図書館がまだまだ道民に定着していると言えないのも、周知のことです。また道内の公共図書館の現況には、とても大きな格差があります。協議会委員として、道立図書館の運営計画や現況について事務局から説明をお聞きしたり、委員の方々の質問や意見を伺ったりしていると、なおさら、そういう思いが強くなりました。殊に、道の公共施設評価における道立図書館の指定管理者制度の導入計画などは、大いに不満をおぼえたところです。けれども、協議会での真剣な討議や、その過程から、今後の北海道立図書館の運営は「直営にすべきである」という『意見書』が出されたことは、とても大きな成果であったと思います。今後、その波紋がどこまで広がってゆくか、行政がそれをどう受け止めるかということに、道立図書館のあり方が大きく左右されるような気がします。

北海道立図書館情報システム・リニューアル

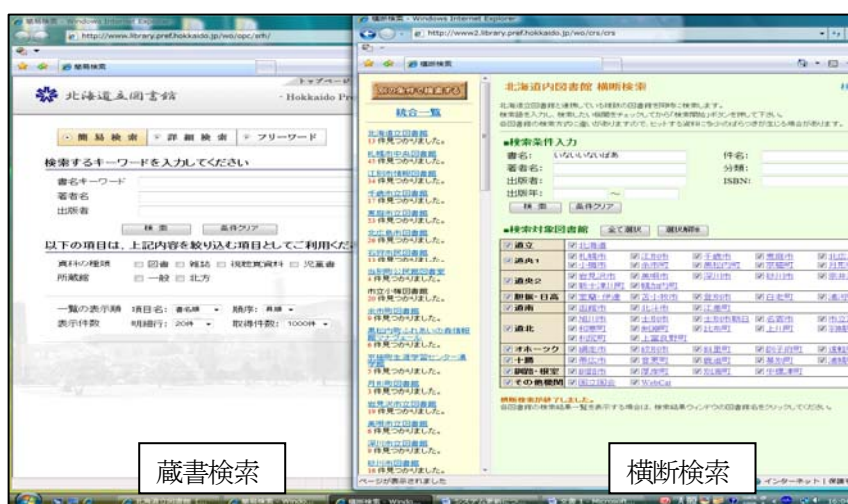
当館では、平成22年1月1日に図書館情報システムを更新し、併せて、ホームページ（HP）をリニューアルしました。これは従来のHPを改善し、見やすく、使っていただきやすいHPを目指したものです。蔵書検索やインターネット予約、レファレンスも充実し、「北方資料デジタルライブラリー」「こどものページ」、図書館向けの「図書館ポータル」など新しい機能も付け加えました。実際の動きなどは、HPにアクセスしてお試しいただければと思いますが、まずは、その一端をご紹介します。

【トップページ】（当号の表紙）

トップページは、言わば図書館の総合案内所です。ページ中央には最新の「お知らせ」と「イベント」の情報を掲載しています。「図書館カレンダー」、「交通案内」、「道内図書館一覧（PDF版もあります）」などをご覧いただけます。左側は、検索画面などにつながる大きなボタンやアコーディオン式に開くメニューで構成されていて、クリックで開閉します。北海道図書館振興協議会の刊行物「北海道の図書館」は「連携のページ（関係団体等）」の中に掲載されています。

【蔵書検索・横断検索】

本の検索には2種類あります。道立図書館の資料をさがす「蔵書検索」と道内図書館の資料を横断的にさがす「横断検索」です。蔵書検索では、北方資料を中心に雑誌の記事検索も可能になりました。横断検索で検索できる図書館は「横断検索参加館一覧」をご覧ください。また、横断検索では国立国会図書館やWebcat（学術情報センターの検索システム・主に大学図書館）の資料も同時に検索することが可能になりました。



【北方資料デジタルライブラリー】

今回の新機能の目玉の一つです。北方資料に属する貴重な地図・絵図、コレクションの一部をデジタル化し、インターネットで見ることができるようになりました。主に古地図／絵図

第 51 回北海道図書館大会 -大会テーマ「伝えよう図書館の魅力」-

期 日：平成 21 年 9 月 10 日(木)～11 日(金)

場 所：ホテルライフオート札幌

参加人数：163 名（公共 71 名、大学 32 名、学校 31 名、専門 15 名、一般 12 名、道外 2 名）

日 程：10 日 13:00-開会式 13:20-基調講演 15:35-パネルディスカッション

16:35-ポスターセッション・インデクシング

11 日 9:30-ポスターセッション 11:45-閉会式

本年は、図書館の魅力を実効的に伝える広報戦略について学び、社会的評価の再構築に向けた意識の高揚が図られた大会となりました。特に、今回初めて全体的に行ったポスターセッションは、異館種が一堂に会する図書館大会の特徴が効果的に発揮されたものとなり、多くの参加者から高い評価を得ることができました。

<基調講演> 「あなたの図書館はなぜ魅力的でないのかー利用促進と存在感訴求のための

広報戦略」

仁上幸治氏（帝京大学総合教育センター准教授）

図書館員に関わるステレオタイプのイメージを提示することにより、利用者の視点に立った広報のあり方と利用促進を図るための事業展開について、わかりやすく解説されました。

特に、講演の導入部分においてペットの亀の動画を見せて参加者の興味を惹きつけ、映画やテレビなどメディアでよく知られている画像を次々に展開していく手法は、多くの参加者から「面白かった。役に立った。」など大変好評でした。

<パネルディスカッション> アドバイザー 仁上幸治氏（帝京大学総合教育センター准教授）

パネラー 奥野進氏（函館市中央図書館主任主事）・新田裕子氏（札幌聖心女子学院司書）・

横井有紀氏（北海道大学附属図書館調査支援担当係長） コーディネーター 河村芳行氏

（北海道武蔵女子短期大学准教授）

奥野氏からはデジタルアーカイブ事業について、新田氏からは日常の教育活動における図書館の関わりについて、横井氏からは北大図書館発行のニュースレター「楡蔭レター」について、それぞれの館が実践している広報活動の説明がありました。館種によるサービス内容や方法の違いが明確に表れた興味深い内容でしたが、所要時間が短かったためディスカッションが深まらず、大会運営における今後の課題となりました。

<ポスターセッション・インデクシング>

ポスターセッションに参加する方が、1 人 2~3 分程度で次の日の発表概要を紹介しました。

この試みによって、14 のブースを回る利用者にとっては限られた時間を有効活用することができ、発表者にとっても事前に利用者の反応を知ることができたと、全体的に好評でした。

<ポスターセッション> 公共 ①「道立図書館ってこんなところ！」伊藤嘉奈子（北海道立図書館）

②「元気な図書館へー情報発信の試み」富岡尊廣氏（札幌市中央図書館） ③「函館市中

中央図書館デジタル資料館」奥野進氏（函館市中央図書館）④「ボランティアとの連携」平井由美子氏（夕張市図書センター）
大学 ①「文部科学省平成 20 年度社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム『地域格差のない医療情報提供のための薬剤師・看護師教育プログラム』」四釜禎央氏（北海道医療大学総合図書館）②「利用者が作る、相互支援型大学図書館」吉澤深雪氏（北翔大学図書館）③「小樽商科大学附属図書館の広報戦略」猿橋キヨミ氏（小樽商科大学附属図書館）
短大 テーマ「短大図書館の工夫」①「情報リテラシー教育支援のかたち～指導教材とパスファインダー」堤香苗氏（拓殖大学北海道短期大学図書館）②「一般公開のかたち～地域連携と公開講座」渡辺泰代氏（釧路短期大学附属図書館）・我孫子晴美氏（札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部図書館）・松田慎代氏（國學院大學北海道短期大学部図書館）③「学生支援のかたち～ボランティア支援と読書支援」柳橋望氏（北海道武蔵女子短期大学附属図書館）・久保美詠氏（帯広大谷短期大学図書館）
学校 テーマ「私の学校図書館を PR する」①「小学校編 本校の図書室利用と読書活動」塚本重見氏（江別市立東野幌小学校）②「中学校編 構築奮闘中！北中図書館」浅村麻姫子氏（札幌市立新琴似北中学校）④「高校編 進化する図書館を作る！」谷口初江氏（北海道石狩翔陽高等学校）④「ボランティア編 子どもと本との架け橋になりたい」札幌市立手稲西小学校学校開放図書館ボランティア



〔写真：ポスターセッションの様子〕

ポスターセッションは、昨年度の図書館大会において、初めて分科会の 1 つとして行われましたが、そのときの反省から、今年は 613 m²程の広い空間と 2 時間を超える時間を設定し、開放感のあるゆったりとした場としました。それにより、自由な雰囲気の中で、さまざまな館種の参加者による情報発信や相互交流が、活発に行われました。

なお、参加者からいただいたアンケートの集計結果は次のとおりです。

（回答者数 74 名、回答率 40.5%）

	基調講演	パネルディスカッション	ポスターセッション・インテグレーション	ポスターセッション
大変良い	37	7	15	26
良い	30	33	36	30
普通	3	24	13	4
良くない	4	5	1	3
大変良くない	0	1	1	0
無回答	0	4	8	11

（業務部業務課）

事業報告

平成21年度全道図書館研究集会「図書館の企画力、PR力を高めるために！」

期 日：平成21年10月13日（火）～14日（水）

会 場：札幌市中央図書館 3階講堂

参加人数：56名

日 程：

【1日目】13:00～開会式

13:15～講座「あのカリスマプランナーに学ぶ！“行列のできる講座とチラシの作り方”」

講師「NPO法人男女共同参画おおた（東京都大田区）」理事長 牟田 静香氏

【2日目】9:30～「My図書館・図書室のPR」（1日目の講座から学んだことをもとに、意見・情報交換） 11:50～閉会式

例年（昨年42名）よりも参加者が多く、アンケートからもテーマの設定と講座の満足度が高かったようです。講師の牟田氏も話術が巧みで、多くのチラシの事例を挙げるなど、惹きつける講義でした。2日目は、グループ討議形式で進められ、日頃交流の少ない、他の図書館員と面と向かって意見交換ができる場となり、参加者にも概ね好評でした。

（業務部業務課）

事業報告

平成21年度全道図書館中堅職員研修会

本研修会では、「地域力」「情報発信」「協働」をキーワードに、地域に根付いた図書館活動について考えました。

期 日：平成21年7月8日（水）～10日（金）

会 場：北海道立図書館 研修室

参加人数：25名

日 程：

【1日目】講義「図書館の底力～地域力・情報発信・協働～」帯広市図書館 館長 吉田真弓氏
情報交換「一步前へ！を目ざして」コーディネーター 北海道立図書館 市町村支援課主査 中田
こずえ アドバイザー 帯広市図書館 館長 吉田真弓氏

【2日目】演習「わたしの図書館でしかできないこと～パスファインダーの作成を通じて」
コーディネーター 北海道立図書館 調査運用課主任 松下悦子 事例発表・アドバイザー 函館市
中央図書館 主任主事 奥野進氏「成長する地域資料～デジタル化でより身近に～」
アドバイザー 北海道立図書館 調査運用課長 加藤ひろみ／参考調査課主査 一戸泰

【3日目】演習「情報発信する図書館」コーディネーター 北海道立図書館 収集保存課長 宮本浩
事例発表・アドバイザー 音更町図書館 図書係長 加藤正之氏「地域住民への情報サービス」

（業務部市町村支援課）

夏休み図書館まつりー古本市とおはなしの会

<初の古本市に1,300人>

8月9日(日)9時過ぎ、道立図書館の前庭に数人の行列ができました。10時過ぎには、前庭を横切り、正面玄関から裏庭まで行列が伸びました。11時から道立図書館初の企画「夏休み図書館まつりー古本市とおはなし会」が開催されるのです。

メインの古本市には、「よみもの」「実用書」「子どもの本」「掘り出し物」コーナーの4つのテントに約8,000冊が並べられました。

用意した本は、主に市町村支援用として10年から20年の間、道内の図書館・図書室に貸し出され利用されていたもので、内容等が古くなり書庫で保管されていたものです。

予想を遙かに超えた人数のため、11時の開会式が終わると同時に入場整理を行いつつ、本を補充していきました。待ちかねた方たちが、お目当てのコーナーに殺到します。一人10冊まで持ち帰れるとあって、胸にたくさんの本を抱えている方、家族で30冊を手分けして抱え笑顔いっぱいの方等、特に「子どもの本」コーナーの絵本は人気で、2時間程で用意した2,000冊が全て無くなってしまいました。

初の古本市は、12,000冊の本に対して、1,330人の方が10,247冊の本を持ち帰られる結果となりました。さらに、初めて道立図書館に来たという方も多く、館内を見学するなど、道立図書館にとって大きなPRとなりました。
(業務部市町村支援課)



<野外ならではの！開放感あふれるおはなし会>

おはなし会は、午前、午後1回ずつ、計2回同じ演目で行い、合わせて約150名のたくさんの親子連れの方々が集まってくださいました。

演目は、始めに『せんちょうさんのぼうし』。新聞紙で作った帽子が、おはなしがすすむにつれ、あれよあれよという間に別のものになっていきました。

二つ目の演目は、大型絵本『わゴムはどのくらいのびるかしら?』。男の子がわゴムを部屋のドアノブにひっかけたまま、いろいろな場所へ出かけます。ぐんぐんのびたわゴムは、やがて宇宙にまで行き、果たして男の子はどうなったのでしょうか。

最後の演目は、紙芝居『ひとつめこぞうのドッガン』。夏なので怖いおばけの話なのでは、と思いきや、子どもたちから笑い声も起こる楽しい紙芝居でした。

青空の下、おはなし会を待つ間に広い前庭をかけまわっていたり、演じ手からの問いかけに元気に答えていたりした子どもたちの笑顔が印象的な、気持ちのよいおはなし会でした。

(奉仕部奉仕課)



道民カレッジ連携講座

奉仕部参考調査課では、平成21年度に道民カレッジ連携講座を4回開催しました。

内容は大きく分けて「暮らしに役立つ図書館活用術」と「インターネット活用術」の二つで、それぞれ基本（初級）編と応用編に当たる講座を行いました。

・暮らしに役立つ図書館活用術

平成21年5月21日に「基礎編」、6月25日に「応用編」を当館1階研修室で行いました。「基礎編」は図書館で行なっているサービスと、暮らしに役立つ参考図書を紹介。「応用編」は雑誌・新聞資料の調べ方をテーマに、図書館の資料等から調査する際の基礎知識を紹介しました。合わせて25名の方にご参加いただきました。



「暮らしに役立つ図書館活用術」の様子

・インターネット活用術

平成21年10月29日に「初級編」、11月26日に「応用編」を北海道教育研究所附属情報処理センターで行いました。「初級編」はインターネットの検索エンジンをより効率よく利用するための検索テクニックを紹介、「応用編」はインターネット活用術初級編の復習と高度な検索、気象情報に役立つ検索方法を紹介しました。合わせて24名の方にご参加いただきました。

(奉仕部参考調査課)

北方資料部では、今年で3回目になる講演会「資料で語る北海道の歴史」を、7月20日（月）に当館で開催しました。当日の参加者は51名。講師に北海道史研究協議会の会員である駒木根恵蔵氏をお迎えして、「ヨイチ場所でのアイヌと出稼和人との取引について」をテーマに、お話をいただきました。余市町が所蔵する林家文書『詫一札之事（わびいっさつのこと）』を通し、アイヌ民族と和人の間で行われた交易の様子について話されました。事実の解説だけではなく、当時の漁船の乗り心地、「身欠き鯨」の作り方、「漁網」の素材についてなど、当時の風景を思い描けるようなお話で、時折の冗談に笑い声が響く楽しいものとなりました。



講演中の駒木根恵蔵氏

また、10月24日（土）には、北海道果樹協会との初の共催で講演会「北の大地のフルーツを！」を開催しました。北海道果樹懇話会の渡辺久昭会長が7種類の果実の機能性成分と効能、鮮度の見分け方について、続いて北海道果樹協会の東井源会長が北海道産の果物の良さについて話されました。最後に、当館職員が関連資料の調べ方など図書館の上手な利用方法について説明しました。32名の参加者は果物やフルーツジュースの試飲のサービスもあり、食への関心と教養をさらに深めているようでした。今回初めて当館に来館された方も多く、図書館の利用方法の説明にも興味を示されており、図書館を知っていただく良い機会となりました。

(北方資料部)

事業報告

3周年を迎えた“わかりやすい健康に関する情報講座”

(北海道医療大学共催事業「道民カレッジ連携講座」)

北海道立図書館では、医療や健康、福祉、介護といった昨今の道民の情報ニーズに対応するため、平成19年5月に当別町の北海道医療大学総合図書館と「相互協力に関する協定」を結び、専門的な情報サービスに向けた取り組みを続けています。

『わかりやすい健康に関する情報講座』は協定の締結以来、毎年2回、同大学総合図書館と共同開催で行っている健康や医療をテーマにした市民向けセミナーです。道民カレッジ連携講座としても開講しており、毎回、認知症や“くすりの話”など身近で関心の高い内容を取り上げ、北海道医療大学札幌サテライトキャンパスには毎回多くの方にご参加いただいています。北海道立図書館では身近な図書館の活用法や、医療に関する信頼できるネット情報の選び方など、実用的な情報提供の講義を担当しています。



3年目となる今年度も、9月と12月の2回開催されました。本講座のこれまでの受講生も延べ229名になりました。22年度も開催する予定です。(奉仕部参考調査課)

トピックス

「創造学園 31 塾」生涯学習（講座）より

札幌市月寒公民館で開催された豊平区の高齢者生涯学習団体「創造学園 31 塾」の講座に、講師として参加しましたが、当塾の佐藤梅子さんからご感想をいただきましたので紹介します。

去る1月21日、北海道立図書館北方資料部から講師をお迎えし「新聞で調べる北海道知識」という講座を行いました。参加者は86名。配付された資料は、講義内容を記した12ページの冊子に加え、北方資料部の紹介と資料の選定基準等が記された大量なものでした。

さらに、関連資料として『北海道・樺太の新聞雑誌』（功刀真一著）、『新聞にみる北海道の明治・大正』（佐藤忠雄著）、道立図書館で記事の切抜きを製本したものが回覧されました。

「新聞の種類・形態」「歴史・縮小版」「それぞれの地方の独自の発行状況」「戦中、戦後」の変換期などの解説・説明を聴くと、その時代背景とともに新聞発行人の気概が感じられました。又、それらを収集・保存する道立図書館の職員の労力、熱意も伝わりました。

新聞は毎日開く、読まなければ一日が始まらないというものですが、読む側の洞察力、想像力、感性によって、公平かつ正確な判断と知識を得ることができると思います。

図書館といえば、私たち利用者は図書を借りる、あるいは閲覧するということですが、今は電算システムによって各地の図書館から、希望する図書を借りることが可能であり、その恩恵を大いに活用したいものです。(北方資料部)

平成21年度全国優良読書グループ表彰・優良読書グループ北海道表彰

北海道読書推進運動協議会

(社)読書推進運動協議会では、「読書週間」事業のひとつとして、全国優良読書グループ表彰を実施しています。それに合わせ、当会でも独自に北海道表彰を行っています。詳しくは『北読進協だより』第19号で紹介していますので、あわせてご覧ください。

『北読進協だより』は「北海道読書推進運動協議会のページ」から見るすることができます。

<http://www.library.pref.hokkaido.jp/web/relation/qulnh00000000eww.html>

全国表彰 絵本の会おはなしはらっぱ 弟子屈町 平成3年設立

町立図書館開館をきっかけに、町内の保育士を中心に発足。町立図書館や小学校を中心に、乳幼児相談会場などでも活動しています。グループ名には、晴れた日の草原にいるような、のびのび、ゆったりした気分で絵本を楽しめる会にしたいという願いがこめられています。

北海道表彰 当別子ども図書館 当別町 昭和62年設立

5年間の自主学習会をきっかけに、母親11人の「本のある場所がほしい」という願いからはじめた家庭文庫。週1回の開館のほか、小学校や保育園での読み聞かせ活動も行っています。

北海道表彰 旭川絵本の会 旭川市 平成5年設立

絵本の研究を続けながら、地区図書館や小学校で読み聞かせを行っています。現在は、年齢別絵本リスト「たのしい絵本のせかい」の改訂にも取り組んでいます。

北海道表彰 あざらしおはなし会 羽幌町 平成元年設立

公民館や保育園・幼稚園やブックスタートで活動しています。名前の元になった「あざらし」のような元気な子どもたちはもちろん、グループホームなどの高齢者からも喜ばれています。

北海道表彰 美幌出前お話の会「がらがらどん」 美幌町 平成8年設立

図書館の応援を受けながら、読み聞かせからスタートし、現在は人形劇、ペープサート、エプロンシアターなどの公演をしています。小学校での読み聞かせも行っています。

北海道表彰 読み聞かせサークルうさぎのみみ 音更町 平成10年設立

図書館での活動を中心に、保育所、デイケアサービス、小学校など依頼があれば出かけます。グループ名には「長いお耳をよーくすまして聞いてほしい」という思いがこめられています。

北海道地域活動振興協会理事長賞 滝川第一小学校よみがたりかい 滝川市 平成14年設立

小学校PTAの教養部の活動の一つから独立したグループで、学校を中心に活動しています。「語り継いでいきたい」という気持ちから、「よみがたりかい」と命名されました。

北海道地域活動振興協会理事長賞 おはなしくれよん 豊富町 平成9年設立

町教育委員会の後押しを受けて設立し、町民センターを中心に活動しています。お母さんたちにも楽しみにされています。保育園、小学校に呼ばれて人形劇などを行うこともあります。

北海道地域活動振興協会理事長賞 人形劇サークルくれよん 池田町 平成元年設立

図書館の親子文庫活動の一環として始まり、自主的な人形劇サークルに発展。依頼により、町内や帯広市を中心に十勝管内の図書館、保育所、幼稚園などで出張公演を行っています。

平成 21 年度北海道立図書館協議会

今年度の協議会は、次のとおり開催しました。

- ・ 第 1 回 平成 21 年 7 月 3 日（金）北海道立図書館会議室
議題（1）平成 20 年度業務実績について
（2）平成 21 年度業務の取組について
（3）公共施設評価について
（4）その他
- ・ 第 2 回 平成 21 年 11 月 17 日（火）北海道立図書館会議室
議題（1）北海道立図書館事業推進計画・事業行動計画の達成状況について
（2）平成 21 年度の活動状況について
（3）平成 21 年度公共施設評価について
（4）その他
- ・ 第 3 回 平成 21 年 3 月 11 日（木）北海道立図書館会議室
議題（1）公共施設評価の検討状況について
（2）平成 22 年度組織機構について
（3）北海道立図書館資料収集計画（平成 22～24 年度）について
（4）平成 22 年北海道立図書館運営計画（案）について
（5）その他

3 回の協議会を通じ、道が実施した公共施設評価のことが話題の中心になりました。特に、方向性を指定管理者制度の導入とした評価結果が報告された第 2 回協議会では、各委員から懸念や危惧する意見が出され、協議会としての考え方を意見書という形で館長に提出することになりました。

平成 22 年 1 月 15 日に提出された「今後の北海道立図書館の方向性について」と題する意見書は、道立図書館の運営の基本方針に基づく道立の図書館として果たすべき役割を示し、道内市町村の現状や他府県の動向を踏まえると、道立図書館への指定管理者制度の導入はそぐわないと結論づけています。この意見書については、平成 22 年 1 月 16 日の北海道新聞に関連記事が掲載され、『出版ニュース』2 月下旬号に意見書の内容が掲載されています。

📌 本年 1 月 1 日からホームページをリニューアルし、「北海道立図書館協議会」のページを新設しました。会議開催のお知らせは随時掲載するほか、目的及び概要、委員名簿、会議の概要等を掲載しています。

[トップページ](#)>[道立図書館について](#)>[道立図書館協議会](#)

（業務部業務課）

ABC官庁建築とは

今年2月からの「図書館海援隊」プロジェクトにあたり、厚生労働省北海道労働局を始め道経済部、ハローワーク、札幌市内の青少年施設など多くの関係機関にご協力や、貴重なアドバイスをいただきました。今後ともこうした“横のつながり”を大切にしていきたいところです。

さて、いくつもの省庁が集まる霞ヶ関ですが、今回の事例は、この霞ヶ関を上空から俯瞰した時に、本屋の形から各庁舎を“D”、“A”と呼んでいたことがらを調べたいというものです。

まず、当館資料を“行政”“公共建築”“歴史”、その他雑学といった各分野で一通り調べてみましたが、該当する記述は見当たりません。そこで、インターネットで調べてみることにしました。

昭和30年代の霞ヶ関の地図と官庁建築に関する資料『霞ヶ関100年』（公共建築協会 1995）を参考に、Aは警視庁、Dは文部省と見当を付けて、これをキーワードに検索サイト「google」で検索したところ、2件の文献が見つかりました。

一つは『文部科学広報44号』（平成16年1月5日発行）。文部科学省庁舎本館の歴史と呼ばれているようになった経緯を写真入りで紹介したもので、「(前略) それぞれの平面の形から、旧警視庁庁舎はA型、旧内務省庁舎はB型、旧文部省庁舎はC型（D型にも見えるが、当時は上階部分がクローズしていなかった）と呼ばれ、ABC官庁建築として有名であった」と紹介されています。

もう一つは、個人のブログサイト「集落町並みWalker」に掲載されていた「霞ヶ関 大名小路跡に集中計画された中央官衙地区」という記事で、こちらは、「旧警視庁（A字型）、旧内務省（B字型）、旧外務省（C字型）、文部省（D字型：現存）、法務省（E字型）というようにそれぞれの平面形状が偶然にもアルファベットでそろったためABCD街と呼ばれた。」とあり、このブログの出典とされる参考資料（『総覧日本の建築 3 東京』新建築社 1987 道立図書館蔵）にも同じ内容の記述がありました。二つの内容は若干食い違っています。

異なる2点の文献というとどちらが本当なのかと思われるかもしれませんが、元々正式名称があるわけではなく、また当の文部科学省の広報記事には出典が明示されていないから誤りであるとも言いきれません。（そのように記憶している関係者が多数であれば、それもまた事実です。）

結局、今回の事例の答えは二つの文献をもって回答とすることにしました。質問者が判断するための材料を提供するというのも、また“レファレンス”の大切な役割なのです。

<参考>

文部科学広報 第44号 http://www.mext.go.jp/b_menu/kouhou/040101/001.htm (全文)

総覧日本の建築 3 東京 日本建築学会編 新建築社 1987 (請求記号 521/SE/3)

現在の俯瞰図は google map で「霞ヶ関」を入力すると見られます。 <http://maps.google.co.jp/>

(奉仕部参考調査課)

西武百貨店札幌店（五番館）関連資料

長年、赤レンガの愛称で親しまれた百貨店「五番館」は、平成 21 年 9 月 30 日に幕を閉じ、当館に、五番館から西武百貨店札幌店時代にかけての関連資料が寄贈されました。

閉店前には、社員の方が資料展示の下調べで当館所蔵資料の調査に訪れており、『五番館時報（1906 年 9 月）』や昭和初期の伝票や新聞広告綴り、お中元カタログなどが当館で丁寧に保管されている様子に大変喜ばれていました。そのようなことがあったからか、寄贈先については多くの施設の候補が挙がる中、道民が気軽に閲覧できるという理由で当館に決まりました。

内容は、情報誌『PICK UP』、『赤レンガ通信』、『ビューティーマガジン』、新聞記事・広告ファイル、ダイレクトメールファイル・写真アルバム、CD『さっぽろの心をあなたに～五番館 CMソング～』、包装紙、お中元カタログなど 55 点です。1990 年代の配布物が中心で、その性質から現存しているのが珍しい大変貴重な資料群です。



「五番館」の前身は、明治 26 年に札幌農学校を卒業した小川二郎氏が南 2 条西 1 丁目に開業した「札幌興農園」にはじまります。当時は、農家を対象にした寒冷地向けの興農園の種苗、輸入農機具の販売でした。明治 39 年には、赤レンガ造りの家屋を建設し、名称を「五番館札幌興農園」（北 4 条西 3 丁目）と改めました。広く雑貨も販売するようになり、北海道で最初の百貨店となりました。「五番館」の名称の由来は、電話番号が 5 番だったからという説と、札幌が小樽から五番目の駅通だったからという説があります。明治 42 年に三井物産札幌支店長小田良治氏が小川氏を引き継ぎ、店舗を 4 倍の 800 坪に増築しました。「ショップガール」と呼ばれる女性店員 10 人がエプロン姿で店頭に立ったのは、日本の百貨店でははじめてのことでした。大正時代に入り、交通手段が馬車鉄道・市電という頃、五番館は、アメリカからフォード 2 台を輸入し、5 円以上の買い物客を自宅まで送るといふ、裕福な層をターゲットとしたサービスを展開しました。その後、日本初のフォード自動車販売も開始します。昭和 33 年には本館（北 2 条西 4 丁目）が落成、東北以北随一という規模でオープンしました。以降も常に新しいことに挑戦してきた五番館の精神は、これらの資料にも表われていると思います。北方資料室で閲覧できますのでどうぞご利用ください。

<参考文献>

『続・北方のパイオニア』 蛭名賢造〔著〕（北海道放送 1964）

『えぞ金豪伝』 奥田二郎〔著〕（共立書房 1954）

『五番館関連資料 戦前編』（今回寄贈された記事ファイル）

（北方資料部）

平成 22 年度 事業予定一覧表

月	上 旬	中 旬	下 旬
4			子ども読書の日(23日) こどもの読書週間(4/23~5/12) 北道振理事会・総会(28日、札幌市)
5	子ども向け図書館利用講座(書庫ツアー)(5日) 集まれ!森林公園クイズラリー(1~5日)		
6	道民カレッジ連携講座(3日) 北読進協 総会(札幌市) 北海道図書館新任職員研修会(当館)	北道図連 北日本図書館大会(24~25日、盛岡市) 道民カレッジ連携講座(17日)	第1回北海道立図書館協議会
7	北海道図書館中堅職員研修会(当館) 道民カレッジ連携講座(1・8日)	道民カレッジ連携講座(15日)	道民カレッジ連携講座(22・29日)
8	北学図 全国学校図書館研究大会(5~6日、静岡市) 道民カレッジ連携講座(4日)		
9	北道振 北海道図書館大会(9~10日予定、札幌市)	日図協 全国図書館大会(16~17日、奈良市)	
10	全道図書館研究集会(札幌市) 北道図連 総合・経営部門研究協議会(8日、青森市)	道民カレッジ連携講座(医療大学共催セミナー)	読書週間(10/27~11/9) 文字・活字文化の日(27日) 北読進協 優良読書グループ表彰
11	日図協 全国公共図書館研究集会 総合・経営、サービス部門(9~10日、富山市) 第2回北海道立図書館協議会 書庫ツアー(3日)	日図協 全国公共図書館研究集会 児童・青少年部門(18~19日、高松市) 全道図書館長会議(札幌市)	
12	北学図 青少年読書感想文全道コンクール及び北海道指定図書館読書感想文コンクール(5日、札幌市)		
1	北学図 北海道学校図書館研修講座(6~8日予定、札幌市)		
2	書庫ツアー(2日)		
3	第3回北海道立図書館協議会		

事業は予定であり、変更することがありますので、ご了承ください。

平成 22 年度 展示予定一覧表

◆ 平成 22 年度展示案内

当館では、1階エントランスホール、中2階北方資料室入口で展示を行なっております。
平成 22 年度は次のとおり計画しております。

月	1階エントランスホール	中2階北方資料室
4月	SF映画の歴史と科学技術の進歩	北海道の火山
5月		北のゲートウェイ”～道内空港事情～
6月	「じゃあ、読もう」 ～国民読書年特集展示～	北方資料室40周年記念展
7月		
8月	アフリカの50年	北海道の動物と動物園
9月		
10月	江 ～姫たちの戦国～	石川啄木展
11月		
12月	宙への旅	北海道の歴史を小説で学ぼう
平成23年1月		
2月		水産王国北海道
3月		
4月		

これらのコーナーのほかにも、北方資料室内、閲覧室（窓辺の本棚）、児童コーナー、開架書庫などで随時展示を開催します。毎月の展示につきましては、当館ホームページ「今月の展示」で紹介しています。



当館ホームページのトップページ

掲 示 板

市町村合併情報

平成 21 年 10 月 5 日、網走管内の湧別町と上湧別町が合併しました。町名は湧別町。それに伴い、旧湧別町図書館は湧別町立湧別図書館、旧上湧別町図書館は湧別町立中湧別図書館になりました。詳しくは当館ホームページをご覧ください。(トップページ>「連携のページ(関係団体等)」>「道内図書館のお知らせ」)

なお、このことにより道内市町村数は 179、図書館設置市町村数は 97 となりました。

国民読書年関連事業

平成 22 年は国民読書年—これは、「子どもの読書活動の推進に関する法律」、「文字・活字文化振興法」等、国民の読書への意識を高める施策の一環として、政官民が協力し国をあげて努力を重ねていくことを宣言するものです。当館では、関連事業として第 52 回北海道図書館大会(9月9日～10日、北海学園大学にて開催予定)において記念講演等を行う予定です。

図書館海援隊

北海道立図書館では、文部科学省の呼びかけに応じて、貧困・困窮者に対する課題解決につながる支援サービス「図書館海援隊」プロジェクトに、今年 2 月から参加しています。

全国の参加館数は当館を含め現在 15 館で、貧困・困窮者支援以外にも医療機関や法テラス等関係部局と連携しながら、医療・健康、福祉、法務等に関する役立つ課題解決支援・情報提供を行おうというものです。当館でも、厚生労働省北海道労働局をはじめ道経済部、札幌市内の青少年施設にもお邪魔し、貴重なアドバイスをいただきました。こうした関係機関との横のつながりを大切に、今後の展開に生かしていきたいと考えています。

今のところ、おすすめリンク集を公開したり、館内のビジネスコーナーに「海援隊コーナー」を設けて関係チラシやパンフレット類を配布したり、身近なサービスからスタートさせています。

詳しくは、当館ホームページに関連ページを開設したので、ご覧ください。

(トップページ>「お知らせ一覧」>

「『図書館海援隊』プロジェクトほっかいどう」)

北海道立図書館報 第 188 号

平成 22 年 3 月 24 日発行

北海道立図書館長 卷瀧 雄二

〒069-0834 江別市文京台東町 41 番地

TEL 011-386-8521(代表)

ダイヤルイン

386-8531(業務部)

386-8522(奉仕部)

386-8523(北方資料部)

FAX 011-386-6906

Eメール:gyoumu@library.pref.hokkaido.jp

HP: http://www.library.pref.hokkaido.jp